

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	一関市立山目小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 27
学級数	3	3	3	4	3	3	3	22	
児童数	111	109	105	130	112	104	12	683	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着を図る指導方法の工夫 ~ 国語・算数の指導を通して ~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

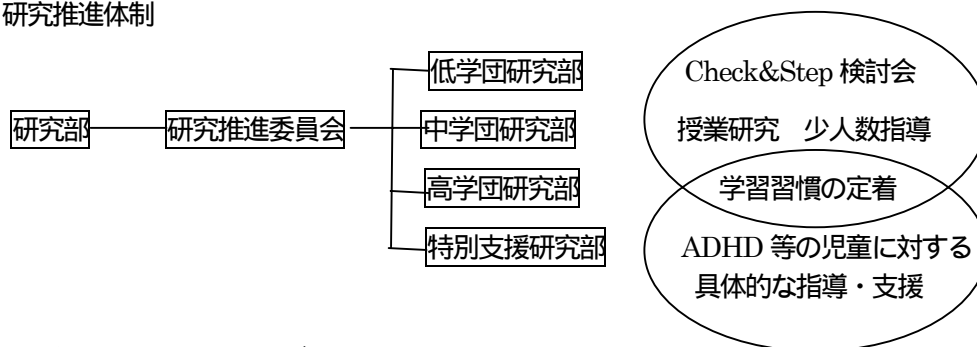
<ul style="list-style-type: none"> 全学年 算数・国語 <p>算数科は系統性が高く、児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。また、本校においては、該当教科に関する研究実績があるため。</p> <p>国語科は、児童に対する実態調査の結果から、研究に取り組むため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る指導方法の工夫～2週間評価を生かした指導と授業の充実～ 研究の見通し 以下のような工夫を行えば、どの児童にも確かな学力が定着するであろう。 学習内容の定着の度合いを的確に把握し、指導に生かすための2週間評価システムを作る。 基礎・基本の定着を図るための授業の充実と習熟度に応じた指導の効果的な方法を探る。</p> <p>研究の内容・方法 評価を生かした指導 ア 2週間評価 イ 補充指導 ウ CRTの分析を生かした指導 基礎・基本の定着を図る指導方法・指導体制の工夫改善 ア 授業の充実(少人数指導) イ 学習効果を高めるための学習習慣の定着 その他 ア 朝読書の推進 イ 授業の進度に合わせた家庭学習</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る指導方法の工夫 ～習熟度に応じた指導内容の準備と方法の開発～</p> <p>研究の見通し 学びの基礎となる力(読み・書き・計算)を確実に身に付ける指導や少人数指導などきめ細かな指導の工夫を行えば、どの児童にも確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 習熟度に応じた指導内容の準備と方法の開発 ア 四則計算、漢字の習得指導 イ 単位時間内の効果的な習熟(分かる・楽しい授業) ウ 家庭学習指導 個に応じた指導 ア 少人数指導の充実 イ 特別支援部とのタイアップによる指導 評価を生かした指導 2週間評価の充実</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 評価を生かした指導について

今年度は、児童がどの程度学習内容を理解したかを丁寧に見取り、児童の実態に即した授業を進めるために、およそ2週間毎に評価するシステム作りに取り組んだ。

ア 2週間評価 (Check&Step)

(ア) 活用法：単元途中の形成的評価と位置付けた、自作の評価問題 Check&Step を作成し、単元半ばから終わりにかけて実施する。その後補充し、診断的評価 (ワークテスト) を行う。

(イ) 実施：ほぼ2週間毎に年間15回設定する。

基本的な流れ

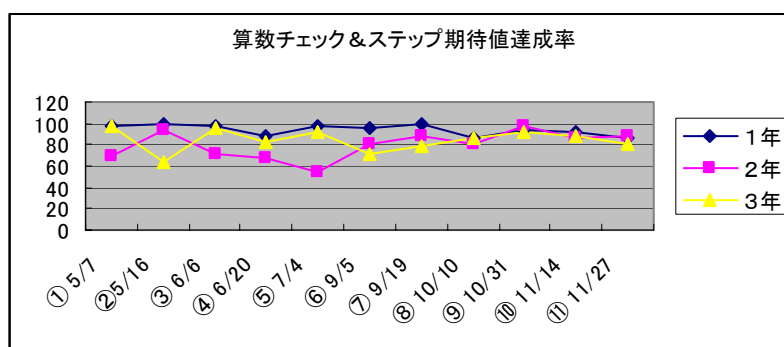
教材研究 評価テストの作成 授業 実施・採点・分析 学年検討会 補充 ワークテスト

(ウ) 作成者：

教科	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
算数	研究主任	少人数担当	少人数担当
国語	学年	学年	学年

(エ) 考察：目標点を80点に設定して、学年毎にその達成率を分析し、児童の定着状況を見たところ、1学期に比べ2学期は数値のばらつきが小さくなってきており、概ね満足できる安定した成果が得られてきている。特に算数では、7回以降80%以上の数値が多くなっている。手探り状態で始めたCheck&Stepであり、問題作成に当たり難易度や内容の妥当性など研究が深まっていないため、単純比較はできないが、放課後の検討会や補充指導の時間が比較的取れる低・中学年で成果が現れている。次のグラフは第1～3学年の算数Check&Stepの80点以上の出現率を表したものである。

第1学年～3学年の期待値(80点以上)出現率



イ 補充指導

(ア) 一斉指導：検討会での指導の反省をもとに、一斉指導の必要な内容を授業中に行う。

(イ) 個別指導：放課後や給食準備中に担任・担任外で補充指導を行う。

(ウ) 家庭学習と連携した繰り返し練習を行う。

ウ CRT の分析を生かした指導

CRT の分析結果から、通過率の低い問題や領域の単元を調べ、教科書に付箋を貼った。

(黄色：50%～70%、ピンク：50%以下) それにより、重点指導の把握・確認ができ、時間をかけて指導したり、補充指導のためのプリントを作成したりすることができた。

(2) 基礎・基本の定着を図る指導方法・指導体制の工夫について

ア 少人数指導 (算数科・第3～6学年)

- (ア) 指導形態：習熟度別コース学習、TT一斉学習（学習内容に合わせて実施）
 習熟度別コース学習は、学習の効果の表れる単元の半ばから後半にかけて行った。
 TTによる一斉学習は、単元の導入段階や、話し合いによって学習効果の上がる場面で行った。

(イ) コース決定の仕方

オリエンテーション プレテスト・希望調査 児童の実態把握・集計 児童へのアドバイス コース決定 児童へ通知

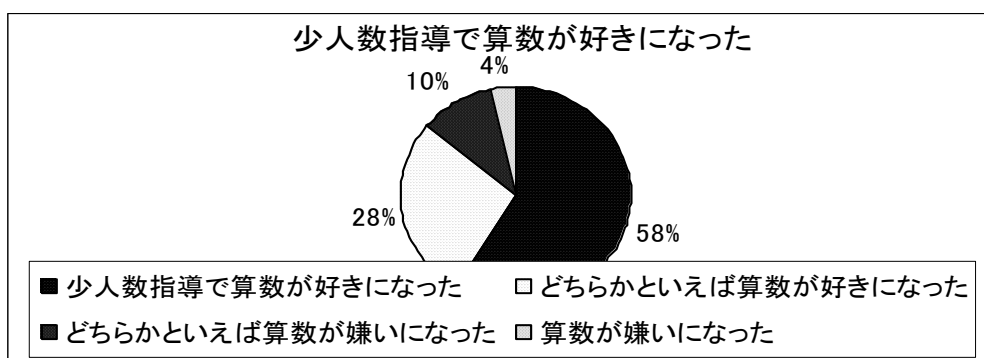
今年度は、コース学習でも話し合いによる学習効果を上げるための意図的な集団構成の工夫をした。そのために児童へのアドバイスに細心の注意を払った。

(ウ) コース学習の留意点

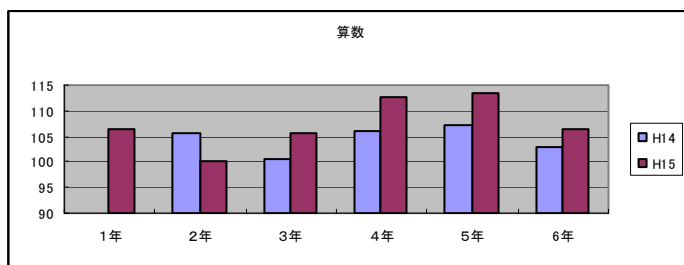
- ・ コース選択は児童の希望を最優先する。
- ・ 単元の途中でコースを変わってもよい。
- ・ 理解に時間のかかる児童のグループは、個別指導の可能な10～15人位にする。
- ・ T1.T2.コース担当は学級、学年の実態に合わせて行う。
- ・ 児童の気持ちや考えを振り返りカードやアンケートで把握する。

(エ) 学習意欲に関する意識調査結果

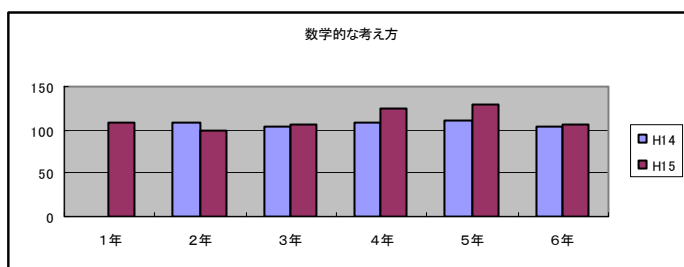
少人数での学習について、学習内容がよく分かる、質問できる、発言できる、等との好意的に受け止めた児童が8割を超え、分かる喜びを感じながら学習していることが分かった。



(オ) CRT（全国比）による平成14年度・15年度各学年の変容

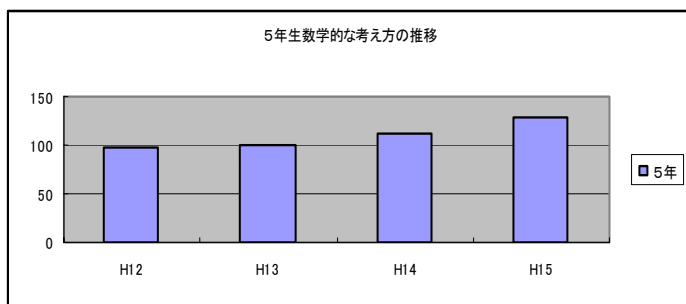


3観点全体の全国比では、第3学年以上で3.9～6.6の向上が見られた。具体的には、第3学年（+5.2）第4学年（+6.6）第5学年（+6.6）第6学年（+3.9）という望ましい変容が見られた。



観点別に見ても、関心・意欲・態度で3.1～9.1、表現・処理で2.6～9.8、知識・理解で3.7～5.9の向上が見られた。特に数学的な考え方では上図のように+15.9（第4学年）、+16.9（第5学年）と大きな伸びが見られた。

平成13年度から第3学年以上で習熟度別少人数指導を行っているが、対象学年は着実に向上しており、習熟度別コース学習の成果が現れてきている。特に第5学年の数学的な考え方の伸びは著しく、平成12年度（第2学年時）は全国比97.3だったが平成15年度には全国比128.3に伸びている。



イ 読む力を高める指導（国語・全学年）

- ・ 授業の中に音読と書くこと（視写や聴写）を位置付ける。
- ・ スモールステップでの読み取りを進める。
- ・ 朝読書の推進（毎朝 8:15～8:30）

2. 今後の課題

- (1) 2週間評価については、検討会の時間確保が難しく、十分な分析や補充指導ができなかった。行事などの精選や日課表の工夫が必要である。
- (2) 具体的な補充指導や習熟指導の研究が必要である。
- (3) 言葉の意味や漢字の習得、四則計算が弱い。それを克服する教材開発、練習システムの開発が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

調査名	目的	内容	時期
2週間評価 Check&Step (自作)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の定着の度合いを単元後半で Check し、Step up を図る。 ・ 定着のよい箇所、低い箇所を確認し、振り返る。(教材や指導の工夫に生かす) 	国語 算数	年間 15回 約2週間毎
単元末診断テスト (市販)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の定着度を把握し、補充の資料とする。 ・ 指導法改善の資料とする。 	国語・社会 算数・理科	単元末
全国標準診断的 学力検査 (NRT)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国基準から見た学力水準を把握し、指導法への配慮、個に応じた補充に役立てる。 	国語・算数 第2・4・6学年	5月
学習定着度 状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の定着度を全県的な規模で把握し、学習指導上の問題点を明らかにするとともに、調査結果及び調査報告書を活用して、児童一人一人の学習定着状況の把握及び指導の充実を図る。 	国語・算数 第3～6学年 社会・理科 第5～6学年	10月
観点別到達度 学力検査 (CRT)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別に習得状況を把握し、補充の資料として、また指導計画の改善に利用する。 ・ 全国と比較し指導すべき具体的項目を明らかにする。 	国語・算数	12月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 実践交流会 本校会場（管内のフロンティアスクール、協力校）平成15年11月13日
- 2 平成16年度本校研究日を管内小・中学校に知らせ、研究会に自由に参加していただく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(チェック事項は) (複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T.Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有り	無	